

まちづくり寄附金

ふるさと納税から見る地方創生の兆しは

町の魅力を発信する機会です



高瀬 勉 議員

質問 返礼品の再考と、より充実した寄附金制度にする手立ては。

答弁 政策推進課長

昨今の他団体の状況等を踏まえ、返礼品の種類を増やし、選択できるようなすることを検討しています。また、町ホームページから直接寄附の申し

込みができるような仕組みづくりや、ふるさと納税専用の郵便振込用紙の作成を行なうことで、より寄附のしやすい環境を整えるとともに、返礼品を通じて特産物等を紹介し、町の魅力をさらに発信していきたいと考えています。



魅力ある特産物

寄附者の思いがしっかりと、はっきりと反映される使途メニューを！

質問 当町のふるさと納税に当たる、まちづくり寄附金の現状と成果は。

答弁 政策推進課長

平成26年度は1月末までに、14の個人と団体から136万1702円、平成20年度からの累計では、延べ96の個人と団体から総額1561万4048円の寄附をいただきました。うち1281

質問 現在、寄附者に対する返礼品は。

答弁 政策推進課長

現在は、お礼状に町内産のお米や農作物などの品を添えてお送りしています。

生ごみを焼却するのはやめたい

ごみ処理事業

「新ごみ処理施設整備構想」について

収集運搬費の削減等を図るべきと考えます



金子美登 議員

質問

当町は東松山市ほか、7市町村供用の新ごみ処理施設整備構想を、4月からともに協議することになる。今回は、これに先立つ平成26年3月に「埼玉中部広域清掃協議会」が示した「新ごみ処理施設整備構想」を中心に伺う。

①町はこの構想にどう臨むのか ②遠方につくられる施設で、町の活性化につなげられると思うのか ③今年2月、福岡県大木町のバイオマスセンターを視察したが、こはもともと、当町の一部



生ごみの資源・エネルギー化の取り組み「分別バケツ」から「収集大型おけ」に移す

答弁 環境保全課長

①この施設はまだ決定されたものではないので、今後町としては町内での減量・資源化を推進し、収集運搬費の削減等を図るべきと考えています。

②遠方に建設された場合、利用は少なく、町の活性化にはつながりにくいと懸念されます。

③大木町の事例は、当町への視察をきっかけに、ごみの資源化・有効活用を図り、今や就業の場の確保・観光客の集客にもつながり、潤いのあるまちづくりができていと感じています。

町施設の活用

旧上野台中学校の有効利用を

活用方針を早期に決定します

早く町民が利用できるようにしてほしいなあ



柴崎 勝 議員

質問

当初の暫定的な利用方法から、多くの町民、子どもたちに門戸を開放して利用がなされていると思われるが、ほかの団体に体育館・グラウンドなど貸し出す考えは。

答弁 政策推進課長

現在の施設の管理状態では、不特定多数への貸し出しには適切な状態ではないと考えています。今後関係各課で対応を協議して、活用方針を決定したいと考えています。

質問 教室の活用については、一

般町民が利用できるのか。

答弁 政策推進課長

についても対応を検討していきたいと考えています。

鳥獣被害対策

質問 当町全体のイノシシの被害状況と、出沒マップ作成の考えは。

答弁 産業観光課長

イノシシは山



有効利用が待たれる旧上野台中学校

◎総合運動場の整備

バイオマスとは、「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」のことです。